



2018年5月13日 御報恩御講・合同支部総会の様子



慧光山 法遍寺(えこうざん ほうへんじ)について 住職 近藤道正

法遍寺は静岡県富士宮市にある「多宝富士大日蓮華山大石寺」を総本山とする日蓮正宗の寺院です。日蓮大聖人様の正しき信仰を人々に弘め、ここ愛知地域の全ての人々が真の幸せをつかむ為に、総本山第67世日蓮上人が開基となつて、昭和57年6月18日法遍院として設立され、平成20年12月23日には改築され、法遍寺となりました。日蓮大聖人の出世の本懐である三大秘法の大御本尊に帰依(きえ)し、破邪顕正の布教活動をさせていただいております。

① 講中のみなさまへ

大聖人は妙心尼に対するお手紙の中で、題目の妙の一字の姿は仏であるが、凡夫はそれをただの文字としか見る事ができない。それを譬えると、池の蓮華が果実を所持している姿や、暗闇の人影が見えないのと同じである。妙の字を仏と見ないのは、私たち衆生が見る眼をもたないからである。信心の眼を開かなければ妙の仏の姿を知ることはできないと御指南くださっています。妙の一字は如意宝珠(にょいほうじゆ)です。これは意のままに無量の宝を取り出すことのできる宝珠のことです。御本尊に向かう勤行唱題は、自らの命にある無量の宝を引き出してくださいませ。大聖人曰く、「さいわいは心よりいでて我をかざる」(十字御書・御書1551頁)と。如意宝珠の伝持者として折伏行に精進し、広布のお役に立ってまいりましょう。

② 創価学会に籍を置くみなさまへ

本門戒壇の大御本尊を離れては、日蓮大聖人の仏法そのものが成り立ちません。なぜなら、大聖人の仏法における信仰の対境は本門戒壇の大御本尊に限られるからです。創価学会が発行した「折伏教典」には、大御本尊からの功德の流れについて、「電灯にたとえて考えてみると、ヒューズがとんで電流が流れてこない電灯は、電球が切れていないからといって、いくらつけても明るい光を発しないようなもので、電球は本物であっても、電流が流れてこなければ光が出ないのである(中略)したがって富士大石寺の大御本尊を拝まないものはすべて謗法である」(339頁)と述べていました。一刻も早く池田創価学会と決別し、日蓮正宗の正しい信仰に身をおいてください。お待ちしております。

③ 正しい宗教に関心のある皆様へ

昔から人の守るべき道徳の一つとして「孝養」ということがいわれます。今日まで育ててくれた両親に対して、よく仕え、その恩に報いることは大切なことです。仏教における孝養とは、ただ親の言葉に従い親にものを贈ったり、面倒をみるということに止まらず、正法の功德によって両親をはじめ、一家・一門の人々を、皆ともに救っていくことに極まります。仏法では仏道修行から孝養をなすことを「上品(ジョウボン)の供養」といいます。正しい信仰をとおして自分を磨き、正法の功德を一切の人に及ぼしていくことが、必ず自らの幸福となるのです。そもそも何をもって道徳とするのか、その原点から日蓮正宗の信仰を实践してみませんか。

第16号

法遍寺
から大切な
皆様へ

2018年6月1日

日蓮正宗 年間方針

行動の年

法遍寺・天晴寺支部活動方針

人材育成

勇猛果敢の折伏

年間実践テーマ

① 勤行・唱題で折伏達成

功德の源泉

② みんなで声かけ御講参詣

罪障消滅と

折伏成就

③ 支部総登山で育成推進

心身浄化と

功德无量

〒488-0881

愛知県尾張旭市城山町三ツ池6075-1

(TEL:0561-54-9226)

相談無料